

令和3年度第1回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会議事録

1. 会議の名称

令和3年度第1回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会

2. 開催日時

令和3年7月29日（木）10:00～11:45

3. 開催場所

我孫子市手賀沼親水広場 水の館3階研修室

4. 出席者

【選考委員】

上村文明委員長、新保美恵子副委員長、檜崎容子委員、嶺岸勝志委員
工藤文委員、小澤俊輔委員

【指定管理者 株式会社あびべじ】

大炊三枝子代表取締役、鈴木康仁取締役

【事務局（農政課）】

秋田芳博課長、斎藤寿義課長補佐、景山雄一郎主査長、西田集主任

5. 議題

令和2年度の実績報告・評価について

6. 公開・非公開の別

公開

7. 傍聴人及び発言者の数

1名

8. 会議概要

令和2年度の指定管理業務に対する選考委員会によるモニタリングとして、株式会社あびべじからの事業報告に対して、選考委員からヒアリングを行った。ヒアリングの詳細は以下のとおり。

令和2度の事業報告・評価

(指定管理者の株式会社あびべじから説明後のヒアリング)

- A 委員) ご説明ありがとうございました。ただ今の令和2年度の事業報告に対して、委員から指定管理者に質問はありますか。
- B 委員) 3点質問します。まず、収支状況についての数字確認です。3月実績の販売促進費が、90.5万円と大きく出ていますが、内容について具体的に教えてください。
- あびべじ) 令和2年度の収支状態が良く、生産者に出荷奨励金という形で、1%を還元した分の額です。
- B 委員) 次に、決算の減価償却費が去年に比べて80万ほど増えています。部門別に見ると飲食部門が大きいようですが、内容について具体的に教えてください。
- あびべじ) 令和2年度の収支状況を鑑み、厨房機器などを複数年分一括して償却しました。
- B 委員) 最後に、コロナ禍で飲食店の運営が厳しい中で、運営方法の見直しとしてコックレス化を行った結果、どの様な影響があったか。課題や対応を教えてください。
- あびべじ) コックレス化に伴い、厨房スタッフの入替がありました。その影響から、リニューアル当初は効率良く業務を行うことが難しかったですが、スタッフが経験を積んできたことで、徐々に効率的な体制を整えることが出来ました。その後、魅力あるメニュー開発として日替メニューの提供に注力しましたが、仕込みや原価率を見直す必要が出たことで、現在は提供を中止しています。現在の体制で魅力あるメニュー開発を進めていくことが課題となっています。
- C 委員) 2点質問します。基盤となっている農産物販売の部分で大きな黒字化となり、皆さんの努力と様々な状況に上手く対応した結果だと思えます。その中で、5月の実績が突出して良いのですが、その理由を教えてください。
- あびべじ) 要因としては、コロナ禍で内食の需要が高まったことから売上が伸びたことと仕入や人件費などのコストを抑えられたことが大きかったです。混雑時の対応や仕入の管理など、スタッフの熟練度が高まり、良い結果が出ました。
- C 委員) 次に、コロナ禍という昨年想定しない状況に初めて直面されて、対応で苦勞された点があれば教えてください。
- あびべじ) コロナが広まり消毒グッズやマスクの入手が困難となってしまう、必要数量を確保するのに苦勞しました。お客様やスタッフの安全面への配慮を常に行う必要があり、難しい中での運営となりましたが、県の補助金を活用して、アクリ

ル板やアルコール自動消毒器などの設置ができ、設備面の対応も行うことができました。

D 委員) 米舞亭でのお客様アンケートについて質問です。スーパーなどで店内にアンケートと店側の回答を掲示しているお店がありますが、あびベジはどのような対応を取っているのでしょうか。

あびベジ) アンケートの店内掲示はしていませんが、要望に対しては店側の対応をわかるように掲示していきたいと思います。

D 委員) 加工品について、利益を出すために苦労していることを教えてください。

あびベジ) コンセプトが地元野菜を使ったお惣菜とかお弁当づくりなので、現場のスタッフが旬の野菜を使ったメニューを考案してくれています。日によってメニューを変えながら、リピーター客を増やしていけるように努力していきます。

E 委員) 農家からは都市部のレストランや販売店への農産物の販売経路が絶たれているケースがあることを聞いており、農家支援のためにも販売先の確保が必要だと思います。市内への転入者など新たな客層への PR をしているのでしょうか。

あびベジ) 今までマンションへのポスティングや子どもが参加しやすいイベントの開催などを行ってきました。地道な取組の成果もあってか、徐々に若い世代の客層が増えてきているように感じています。加えて、積極的な情報発信を行うため、Facebook や Twitter などを使用してきましたが、若年層への情報発信のために、新たに Instaglam の開設も進めています。また、外部販売の取組も進めているため、新たな客層への販売を拡大していければと思います。

F 委員) 日頃よく買い物させていただいて、良かったと思う点からお話させていただきます。あびこエコ農産物認証制度のスタートということで、エコシールが付いている商品が、以前よりも増えたように思います。今後のエコ農産物の増加予定についてお伺いします。次に、仕入れ農産物や加工品の原料原産地について、一部に外国産が使われていることがあるようです。デパートなどでも一部原料に外国産を使用しているようですが、国産品で賄えないのでしょうか。

あびベジ) まず、あびこエコ農産物認証についてお答えします。当事業は農政課が主体となり運用していますが、手続きの簡素化もされ、多くのあびこん出荷農家が取り組むようになりました。全ての農産物で認証を受けることは難しいですが、今後は今以上に増えていくと思われま。次に、外国産の仕入れ農産物や加工原料についてお答えします。外国産の仕入れ農産物は、基本的には時期によってどうしても国内で流通量が減ってしまう物があるため、市内産・国内産が店頭で用意できない時に外国産を仕入れています。また、外国産の加工品原料は、コスト面から一部で使用するものもありますが、千葉県から派遣された料理の専門家にも確認し、安全面を確認した上で使用しています。

F 委員) 外国産農産物の農薬の使用状況について教えてください。

あびベジ) 仕入れている農産物は商社等を介して輸入しており、日本全国で流通していま

す。当然、国内規格に合った物を取り扱っていると聞いています。

F 委員) 安心しました。ありがとうございます。次に、コロナ対策について伺います。来客数が増える時間帯では、密にならないような対策は取られているのでしょうか。また、カゴなどの消毒対応についてお答えください。

あびベジ) 昨年5月頃の緊急事態宣言時は、来客数が増加したため、入場制限を行いました。また、継続的に少人数での買い物を促すポスターを掲示しています。また、使用済みカゴは定期的に消毒しており、加えて、お客様が適正に手指消毒ができるように、店内の複数個所にアルコール消毒液を設置しています。

A 委員) 新型コロナウイルスが拡大している中で業績を上げられた令和2年度でしたがこの要因は企業努力で得たものなのか、それともコロナ禍による特需なのかをお答えください。

あびベジ) コロナ禍の内食需要が高まったことも要因ではありますが、会社として様々な経営面の見直しを行ったことも大きな要因となりました。数字に直結するところでは、仕入れや人件費の適正化が図れたことで、コスト面を見直すことが出来ました。

A 委員) 法定福利費が減少していますが、理由をお答えください。

あびベジ) 令和2年度は前年度に比べて正社員が減少したため、社会保険料などの法定福利費が減少しています。

A 委員) 様々なコロナ対策を行ってきたことは評価します。コロナ前後でフェーズが変わってきているため、今まで培ってきたコロナ対策を今後の経営にも活かしていくように事業計画にも盛り込んでもらいたいと考えています。

A 委員) 最後に、人材配置の項目に記載されているスタッフのマルチ化について、具体的に教えてください。

あびベジ) 直売所部門やレストラン部門など、それぞれの部門内であれば、1人のスタッフが幅広く業務に対応できるようにスタッフ教育をしています。

A 委員) ありがとうございます。他に委員の皆様から指定管理者に対する質問はありますか。

E 委員) 今後の提案を1点確認させていただきます。マンションへのポスティングなどを行っているという話題が出ましたが、管理人などまとめ役の方に宣伝していくことも有効だと考えています。今後の参考にさせていただければと思います。

A 委員) 他に質問はありますか。

全委員) ありません。

A 委員) それでは、以上でヒアリングを終了したいと思います。あびベジの皆様ありがとうございました。

(株式会社あびベジ退席)

A 委員) それでは、各委員からの寸評をお願いします。

- F 委員) 以前に比べるとエコ農産物の取り扱いが増え、米舞亭や加工品もメニューを変えてマンネリ化を抑制するなど、日々の努力が伺えます。今回、指定管理者からの説明を聞いて安心しています。消費者としては嬉しく思っております。
- E 委員) 大変努力をされて、高い成果を上げていることに心から敬意を表しております。
- D 委員) 努力が良く分かる事業実績であったと思います。食育について、力を注いでいるようですが、コロナ禍で対面授業等が難しい中でも、野菜苗の供給やアドバイスなど行っており大変評価しています。また、我孫子駅、天王台駅などのショッピング施設やスーパーでも地元野菜の販売コーナーを設けており、ライバルとなる店舗が増えているため、一層の努力をお願いします。
- C 委員) 経営が安定したことが非常に良かったです。コロナ禍による影響が追い風になったとは思いますが、上手く対応できたからこそその成果だと思います。道の駅しようなんのリニューアルが控えていますので、この様な新しい状況にも対応できるように準備を進めていってください。また、食育は農業拠点施設としての大きな意義だと思いますので、D 委員からの寸評でもあったように、コロナ禍でも実施できる食育活動を模索して行って欲しいと思います。
- B 委員) まず、収支が改善されたことが非常に良かったと思います。また、コロナ対応や労務管理、役員の待遇改善など指定管理者として成熟してきているのだと思います。一方で、午後になると野菜が不足してしまうことやホームページの管理などまだまだ改善すべき点も多く残されているのかなと思います。あと、先ほど D 委員がおっしゃられたアンケートへの回答や対応は、お客様の信用を得るところでポイントになり、ライバル店舗との差を出せるところであると思いますので、今回出た利益を有効に活用してもらって、農業拠点施設の効用を高めていただければと思います。
- A 委員) 各委員が農業拠点施設に足を運び、商品を見て、色々な角度であびベジの実態を見た上で、評価できている良い状態だと思います。道の駅しようなんがリニューアルされますが、ショッピングセンターやスーパーなどでも地元産を販売する店が増えており、消費者ニーズは高まっていることから、農業拠点施設として地元の新鮮な農産物を食べてほしいという方向性は間違っていないので、コロナ終息後も企業努力で健全な経営をして行って欲しいと思っております。

(事務局から評価の集計結果を発表)

- A 委員) 集計結果について、説明がございました。意義がある方いらっしゃると思います。
- 全委員) ありません。
- A 委員) それでは、最後に総評を申し上げます。
コロナの感染拡大による状況の中で、今後の売上を拡大し、より利益を計上できることを願っておりますが、道の駅しようなんの動向が気になるところです。

その点について、事務局が心配している点や把握している点があればお答えください。

秋田課長) 柏市とは情報共有しており、道の駅しょうなんは売り場面積が約 3 倍となり、12 月にリニューアルを予定していることを聞いています。事務局としては、真っ向から競争してしまうのは難しいと考えています。道の駅は大型の直売所、あびこんは食育などを絡めた地産地消の農業拠点施設として、運営スタイルが違います。その違いを強めて、あびこんらしい勝負をしていけるように準備が必要になってくると思います。その点を見据えて、今年から農業拠点施設から徒歩圏内に農地を借りて、農業体験イベントを行う準備を進めています。また、柏市からの情報では、道の駅しょうなんでは、基本的には柏市内の農家を出荷農家とする予定で、不足する農産物は仕入れ品で賄う予定とのことでした。今後も柏市と連携を図りながら、進めていければと思います。

A 委員) わかりました。ありがとうございました。

(傍聴者からの発言はないことを確認)

A 委員) それでは、よろしいでしょうか。令和 3 年第 1 回農業拠点施設指定管理者選考委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上